

平成24年度 (宇都宮市立富士見) 小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標 (目指す児童像含む)

心豊かで健やかな体を持ち、創造性豊かに自ら学び、自ら考え主体的に判断し、行動し、よりよい社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成を目指す。

- 1 心豊かで、思いやりのある子ども(心豊かな子)
- 2 よく学び、工夫する子ども(よく学ぶ子)
- 3 健康で、たくましい子ども(たくましい子)

2 学校経営の理念 (目指す学校像含む)

教育基本法、学校教育法、学習指導要領並びに、本県の教育振興の基本理念や、本市の学校教育推進計画及び学校教育スタンダードに基づき、児童の実態や地域の特性を踏まえ、人間尊重の教育を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、学校教育の理念を

- ・ 学ぶことが楽しく、生き生きと活気に満ちた学校
- ・ 明るく、あいさつの響き合う潤いのある学校
- ・ 家庭や地域と手をつなぎ、ともに歩む学校

と定め、全職員が和と協力体制のもと総力を結集して学校経営にあたる。

3 学校経営の方針 (中期的視点) ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

教育目標の達成を目指し、歴史と伝統、よき校風を基盤とし、学校は子どものためであることを前提に、21世紀をたくましく生きる子どもの育成に努めるために、次の方針により学校経営にあたる。

- 1 楽しい学校づくり
- 2 学習指導の充実
- 3 健康・体力の保持・増進
- 4 豊かな心の育成
- 5 児童指導の充実
- 6 教職員の資質の向上
- 7 家庭・地域・幼保・企業との連携強化(1)

4 今年度の重点目標 (短期的視点) ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

【 学 校 運 営 】

家庭・地域・企業等の学校支援ボランティアの協力を得、地域の特色を生かした教育活動の推進

【 学 習 指 導 】

伝え合う力を育て、人とのつながりを築こうとする児童の育成

～ 相手意識を大切にした指導法の工夫 ～

【道徳教育(児童生徒指導)】

基本的な生活習慣の確立と社会的な資質・能力の育成

【健康(保険安全・食育)・体力】

運動に親しみ、自ら進んで自分の健康・体力の向上に励む児童の育成

～ 教科体育及び体育的な行事における指導の工夫 ～

5 自己評価 (評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。)

※地域学校園内で共通する取組は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	<p>A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」⇒それぞれの肯定的回答85%以上</p>	<p>①学校行事等において、児童が主体的に活動する場を多く設定し、活気あふれる学校づくりをする。</p> <p>②授業では、学習意欲を高める多様な体験的学習の工夫をする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの肯定的回答は、児童93.4%、保護者93.1%、教職員及び地域住民は100%と昨年より良好である。市全体と比較してもほぼ同じであった。</li> <li>児童が主体的に活動する行事（音楽集会・ゆうゆうコンサート）や児童会活動（1年生と遊ぼう・チャレンジランキング・なかよし集会）等を実施した。</li> <li>6・11・1月にはオープンスクールとして、学校の教育活動を広く地域に公開した。</li> </ul> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年において、学年に応じ、街の先生や地域ボランティアの協力を得て、体験を通して学ぶ授業を展開した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・保護者の評価は昨年度より肯定的回答が増えている。今年度同様学校の様子を参観できる機会を持つ。</li> <li>学校の様子を広く周知するために、学校での行事や体験的学習の様子などを学校だよりや学年だより、HP等で知らせるようにする。</li> </ul>	
	<p>A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は協力し、教えるべきことをしっかりと熱心に指導している」⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①それぞれの子どもよさを認め励まし、指導すべきことはしっかり指導する。</p> <p>②教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、個に応じた支援に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の肯定的回答は、90.3%と良好であり、地域住民も85.7%と大幅に向上した。</li> <li>児童との教育相談を年2回（6月・11月）に位置づけ、一人一人の児童と話す機会を設けた。また、保護者との個人懇談も年2回（7月・12月）に実施し、教育相談での児童の様子を保護者と話し合い、連携を図った。</li> <li>児童のよさや指導経過等を、学年または学校全体で共有し、継続的に指導にあたった。</li> <li>「まごころカード」に友達のよさを記入し、学級内に掲示し、他のよさを認める心が育つようにしてきた。</li> </ul> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度同様、保護者や地域の方々に学校に来ていただく機会を増やし、教職員の様子を見ていただくとともに、教師もより一層の研鑽に努めるようにする。</li> </ul>	

A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。  
**【数値指標】**全体アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒保護者の肯定的回答80%以上

A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。  
**【数値指標】**全体アンケート「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」⇒児童の肯定的回答80%以上

A5 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている  
**【数値指標】**全体アンケート「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答80%以上

①「みんなのやくそく」による日常指導の充実と教師による生活当番活動を実施すると共に、保護者との連携・協力を図る。  
 ②道徳教育の充実を図り、全校での道徳の公開授業を実施する。

①教材開発・課題提示の工夫など、一人一人の実態に応じた指導により分かる授業を行う。  
 ②3年生以上の国語・算数でT Tや少人数指導など、学習形態の工夫を図り、個に応じた指導を行う。

①学習状況調査やアンケート等の児童の実態から、各教科・各種年間計画を見直し、自校化を図る。  
 ②学校評価・学校行事アンケート等により、児童や保護者の願いを生かした、よりよい学校行事・学年行事・学習活動を実施する。

**【達成状況】**

- ・保護者の肯定的回答は89.1%、地域住民の肯定的回答が87.5%でともに良好である。
- ・「みんなのやくそく」の共通理解を図り、児童指導の徹底を図った。
- ・生活当番が週目標の徹底を図るため、業間・昼休みなど校内を巡回し指導してきた。

B

- ・児童の問題行動があったときは、チームで対応し、迅速に問題解決にあたった。
- ・道徳教育の充実に努め、6月の教育連絡日（授業参観）では、全学級で道徳の授業を公開した。

**【次年度の方針】**

- ・今年度同様「みんなのやくそく」の共通理解を図り、児童指導の徹底を図る。
- ・道徳の授業の充実・公開を実施する。

**【達成状況】**

- ・児童の肯定的回答は92.1%で、良好であり、保護者の肯定的回答も81.1%と向上した。
- ・学年や学級の児童の実態に応じて、分かりやすい授業となるよう、教材を開発したり課題を明確にさせたり等の実践をしてきた。また、算数・国語科における少人数指導、T・Tの指導により、個に応じた授業の実践に努めてきた。

B

- ・学習内容定着度調査の結果は、市の平均と同等か上回る学年が多かった。
- ・配慮を要する児童については、個別に指導するかがやきルーム等を活用し効果が上がった。

**【次年度の方針】**

- ・少人数指導、T・Tの指導により、個に応じた授業の実践に努め、教職員が工夫した校内研修を行って、授業力の向上を図ったり、個に応じた指導の成果を保護者にも伝えたりしていく。

**【達成状況】**

- ・肯定的回答は保護者が96.3%、地域住民が100%と、高評価を得ている。
- ・教職員への学校行事ごとの反省やアンケート、保護者のアンケート結果を見て、児童や保護者の願いを加味した年間行事を組み込んだ。

B

**【次年度の方針】**

- ・保護者や地域住民のアンケートを参考にしながら、次年度の教育課程をバランスよく編成する。

A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。

【数値指標】全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答80%以上

A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。

【数値指標】各学年、地域や企業と連携した教育活動を年3回以上実施している。

① オープンスクール・土曜授業・ゆうゆうコンサートなど機会をとらえて、保護者や地域の方に学校を公開する。

②学校だより・学年だより・保健だより・食育だよりを毎月発行する。「学校だよりは地域にも回覧し、学校の取り組みを地域にも知らせる。」

①企業や大学との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。

②地域探検や農業体験等地域教材や地域の人材、街の先生を活用した授業を計画的・継続的に実施する。

① 隣の県立博物館・市立図書館・文化会館・宇都宮城等の文化施設を積極的に授業に活用する。

【達成状況】

- ・保護者の肯定的回答は91.1%であり、オープンスクールや教育連絡日（授業参観）への参加率も高い。また、地域住民も100%の高回答を得ている。
- ・各種たよりは、毎月保護者に配布したり地域にも回覧したりして、学校の取組や活動の様子を知らせた。
- ・保健だより、食育だより、給食献立表を毎月保護者に配布した。学校としての取り組みだけでなく、家庭でも実践して欲しいことなど内容を工夫したので、家庭での健康に対する意識も高まっている。

B

【次年度の方針】

- ・行事ばかりでなく、児童中心の集会や音楽集会、ゆうゆうコンサートなどの開催について保護者や地域の方に知らせ、参観する機会を設け今年度同様学校の活動の様子をさらに公開していきたい。
- ・健康に関する児童の実態や保護者のニーズを把握した上で、各種たよりの内容を充実させる。

【達成状況】

- ・保護者が89.1%、地域住民の肯定的回答が100%と高評価を得られた。これは、英語、書道、珠算、箏・尺八、昔遊びやもち焼き体験などで、多くのボランティアの協力・支援をさせていただきながら、体験的な学習が進められた結果である。
- ・全学年とも地域や企業と連携した教育活動を3回以上実施でき、栃木SCやブレックス等による授業も行った。

A

- ・学区内にある県立博物館や文化会館及び周辺施設を積極的に活用できた。

【次年度の方針】

- ・今年度同様に保護者、地域、企業等との連携を図った授業を継続していく。
- ・地域協議会のコーディネーターと連絡を取り合い新たな地域人材の募集、授業で活用できる地域の素材の開発に努める。

<p>A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①・縦割り班での清掃指導の充実を図ると共に、学年集会や学級活動において清掃の仕方の指導を行う。</p> <p>②草花栽培等校内緑化を推進し、よりよい環境づくりをする。</p> <p>③ 日常的に校内巡視を行うと共に定期的な安全点検を実施し、安全な学習環境づくりをする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の肯定的回答は90.2%と大きく上がったが、地域住民は、75.0%と下がった。</li> <li>・縦割り班での清掃や委員会活動での校内緑化活動で潤いのある環境づくりが推進できた。</li> <li>・保護者の奉仕活動や地域ボランティアによる農園の管理も行われ充実してきた。</li> <li>・施設の管理も計画的に行われ、日常点検で問題箇所が見つかり、修理・改善がすぐに行われた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃の縦割り活動を継続し、学級や学年集会等で清掃の仕方等の指導に努めるとともに時間を守ることや計画的に取り組むこと、振り返りを重視することに重点を置いて取り組んでいく。</li> <li>・花壇や農園、草花の管理は、今後とも計画的・継続的に実施していく。</li> <li>・定期的な点検を計画的に行うとともに、日常の点検を重視し、迅速な対応をするようにして安全な環境づくりに努める。</li> </ul>
<p>B1 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に努めている。</p> <p>【数値指標】1か月に20冊以上読書する児童が80%以上</p>	<p>① 週2回、学級ごとに落ち着いた雰囲気朝の読書を実施したり、週1回、図書室利用の時間の活用を工夫したりする。</p> <p>②図書委員や保護者・地域ボランティアによる読み聞かせを全学級、月1回実施する。</p> <p>③地域団体による素語りや読み聞かせを月1回学年ごとに実施する。</p> <p>② 学年オープンスペースに読書コーナーを設置し、休み時間等に身近に読書に親しめる場所を作る</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の肯定的回答は59.9%と低い結果になったが、保護者は94.4%、地域住民は100%と良好な結果になっている。</li> <li>・朝の読書、読み聞かせ、お話し会等を計画的に実施し、読書活動には力を入れてきた。児童はおおむね読書が好きであるが、20冊の中に調べ学習や授業で使った図書等を含めていないと思われる。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた内容の「おすすめの10冊」を各学級でも生かしていく。</li> <li>・学年に応じて、朝の読書や週1回の図書室の効果的な活用を図る。</li> <li>・昼のお話し会や下野民話の会による素語りなどでのボランティアの計画的な活用と充実を図り、児童の関心を高める。</li> <li>・図書室や読書コーナーの図書の選定等に児童の意見も取り入れ、図書の充実を図る。</li> </ul>

教

育

活

生

活

動

の

状

A9 児童は、進んであいさつをしている。

【数値指標】全体アンケート「児童はあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答80%以上

- ①学級の児童・委員会児童・教職員が週3回輪番制で中央広場に立ち、あいさつ運動の充実を図る。
- ②あいさつ運動の様子をたより等で周知し、家庭にも協力を呼びかける。

A10 児童は、正しい言葉づかいをしている。

【数値指標】全体アンケート「児童は正しい言葉づかいをしている」⇒保護者の肯定的回答80%以上

- ① 日常の言葉遣いや敬語の使い方等の指導を全職員共通理解をし、継続的に行う。
- ② 職員室の出入りの場や授業の発表場面等で正しい言葉づかいを指導する。

【達成状況】

- ・児童の肯定的回答は、82.2%、保護者は54.5%と昨年度よりよくなってはいるが、依然低い評価となっている。
- ・あいさつ運動等を通して、児童の意識の向上を図ってきたため、年度後半はよくなってきている。

【次年度の方針】

B

- ・学校全体であいさつが児童から進んでできるように、あいさつ運動の充実をさらに図っていく。
- ・教室でのあいさつ（授業の始まりと終わり）や校内での返事・先生方へのあいさつ等で声をしっかり出せるよう指導していく。
- ・家庭と連携してあいさつ運動の充実を図っていく。

【達成状況】

- ・保護者の肯定的回答は、64.3%、児童は77.3%とあいさつの項目と同様低くさらに努力が必要である。
- ・返事や言葉づかいについては、各学級でも指導しているが、急な変容は表れにくく難しい課題である。

A

【次年度の方針】

- ・低学年のうちから丁寧な言葉づかいや授業中の話し方を教え、根気強く指導していく。
- ・教室に話し方の掲示を行い、日々の学習や生活の中で身に付けさせていく。
- ・学年だよりや学級懇談、個人懇談等で保護者にも啓発を図り、協力をお願いする。

況

B2 交通ルールを守って安全に登下校している。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、登校班で登校し、集団で安全に注意しながら、下校している」⇒児童の肯定的回答80%以上

【数値指標】

保護者の登下校指導への参加率80%以上

B3 いじめや不登校がない明るい学級で生き生きと過ごしている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、友達と仲良く助け合いながら、楽しく学校生活を送っている」⇒児童の肯定的回答80%以上

【数値指標】

まごころカード各クラス各学期100枚以上

【数値指標】

いじめ解消率100%

①登下校指導を地域・保護者・教職員が一体となって実施する。週2回は集団下校を実施する。

②交通安全教室を警察スクールサポーター、スクールガードチーフ等の協力を得て計画的・継続的に実施したり、防犯教室を警備会社と連携して行ったりする。

① 教職員が協力し合い、どの子ども居場所が確保できる学級経営に努める。

②縦割り班活動を充実させ、毎日の清掃活動をはじめ、なかよし集会やチャレンジランキングなどの活動を通して異学年の交流を図る。

③「まごころカード」の実践を通して、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。

④Q-U検査やいじめアンケート・教育相談の実施により、早期発見・早期対応に努める。

【達成状況】

・児童の肯定的回答は92.7%、地域住民は100%と高いが、保護者の肯定的回答は71.5%と低かった。

・各学年の防犯教室は、警備会社とスクールガードチーフの協力を得て行い、効果を上げた。

B 【次年度の方針】

・週2回の集団下校を継続し、児童の下校の様子を見るようにしていくが、問題が起きた時には組織的に即対応したり、指導したりしていく。

・各学年で実施している防犯教室は、次年度も警備会社やスクールガードチーフの協力をいただくように計画している。

・組織的にあきらめない精神を持って、根気強く指導に当たる。

・地域・保護者・学校がさらに連携して、計画的継続的に連携し、協力し合う。

【達成状況】

・教職員、保護者、児童の肯定的回答は90%を超え、地域住民も100%と昨年より向上した。

・まごころカードやいじめ解消率についても指標を達成している。

【次年度の方針】

・今年度の取組を継続し、さらに充実させていく。

・不登校の子がいない本校の現状を継続していくために、教職員がアンテナを高くして組織的に対応していく。

・Q-U検査結果を参考に自分の学級経営を振り返り、さらに改善・向上を目指していく。

A

<p>A11 <u>児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</u></p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は進んで運動している」⇒児童肯定的回答率80%以上</p>	<p>①検定カード（水泳・縄跳び・持久走・鉄棒）を活用し、目標を持って積極的に運動を実施し、体力増強への意欲を高める。</p> <p>②日課を工夫し、業間・昼休みの時間を確保し、外での自由遊びを奨励する。</p> <p>② ゆうゆうタイムでの遊びを奨励する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に関して、全てにおいて肯定的回答が高く、外遊びを中心によく運動していることが明らかになった。</li> <li>・各種検定カードが効果的に活用され、それを励みに自主的に運動する姿が多くなった。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度同様に外遊びの奨励や声かけを継続していきたい。</li> <li>・学年だより等で体力向上の取組について知らせる。（マラソンチャレンジ・ドッジボール大会など）</li> </ul>
<p>A12 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「自分の子どもは好き嫌いなく食事をしている」⇒保護者肯定的回答率80%以上</p>	<p>① 栄養のバランスを考えた食事が実施できるように、学校栄養職員による「食に関する授業」を実施したり、保護者会等で家庭の協力を要請したりする。</p> <p>②親子給食を実施して、楽しく会食しながら、好き嫌いなく食べられるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の肯定的回答は、70.2%であり、家庭でもまだ偏食の多い状態がわかる。</li> <li>・栄養職員により授業や親子給食・食育だより等により、保護者や児童の食に関する関心が高まっている。しかし、給食での実態を見ると、まだまだ偏食が多い。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地道に今年度の取組を継続し、家庭と協力して、児童自身が自分の健康や成長に必要なバランスのよい食事を取れるよう意識化を図りたい。</li> <li>・「お弁当の日」でのお弁当作りを通して、作る大変さや栄養バランスの大切さに気付かせたい。</li> </ul>
<p>B4 運動技能や体力の向上を図り、健康な体づくりをしている。</p> <p>【数値指標】 ミニマムでの結果が5%向上した。</p>	<p>①うつのみや元気っ子プランに基づき、全員がミニマムプランを達成できるよう体力の向上に努める。</p> <p>②養護教諭による肥満傾向の児童への健康教室を実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に関しては、全てにおいて肯定的回答が増え、外遊びを中心によく運動していることが明らかになった。</li> <li>・各種検定カードが効果的に活用され、それを励みに自主的に運動する姿が多くなった。</li> <li>・肥満傾向の児童は、養護教諭の働きかけにより、家庭の協力が得られ、ローレル指数の改善率が上がっている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種検定や宇都宮のミニマムプランの目的や実施経過を家庭に連絡することで、家庭においての体力向上への意識を高めていきたい。</li> <li>・学年だより等で体力向上の取組について知らせる。（なわとび大会・ドッジボール大会など）</li> <li>・養護教諭による取組も継続する。</li> </ul>

A13 児童は、進んで学習に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「児童は進んで学習に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答80%以上

A14 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「児童は落ち着いて学習に取り組んでいる」⇒保護者の肯定的回答80%以上

B5 自ら進んで学習に取り組む態度が身に付き、基礎学力が向上している。

【数値指標】

朝の学習で週1回漢字と計算練習を確実に実施する。

【数値指標】

全体アンケート「家庭学習を毎日、決められた時間実施している」⇒児童の肯定的回答80%以上

①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努める。

②学習活動の中で、小集団での話し合いの場を設定し、発言しやすい環境を作り、コミュニケーション力を育成する。

③家庭と連携して、家庭学習への意欲を高めたり、定着を図ったりする。

①基本的な学習習慣を身につけさせるよう繰り返し丁寧に指導する。

②話の聞き方・発表の仕方等を学年に応じて指導したり、個に応じて支援したりする。

①朝の学習として、週1回漢字や計算の繰り返し学習を実施する。

②各学年の発達段階に応じて「家庭学習のしおり」を家庭に配布し、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。

【達成状況】

・肯定的回答は、児童が87.9%、保護者82.8%と向上したが、地域住民は62.5%と開きが見られた。

・教材研究を深め、意欲や興味を高める教材や展開を工夫したので、児童の学習意欲が高まった。

【次年度の方針】

・①②ともに児童の発達段階に応じた取組を継続していく。

・話し合い活動を意図的に取り入れることで、自分の思いを伝える大切さや思いが伝わった時の喜びを味わわせるように努める

【達成状況】

・肯定的回答は、児童が81.1%であり、保護者は85.5%と向上した。

・児童の発達段階に応じた学習訓練を低学年から行い、繰り返し指導してきた。

【次年度の方針】

・①②ともに児童の発達段階に応じた取組を継続していく。

・話し合い活動を意図的に取り入れることで、自分の思いを伝える大切さや思いが伝わったときの喜びを味わわせ、安心して学習に臨めるよう努める

【達成状況】

・肯定的回答は、児童82.1%、教職員94.7%と向上している。また、保護者は74.4%と約10%の向上が見られた。

・3年生以上は少人数・習熟度別学習を取り入れ、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を実施しているところである。個人差はあるが、徐々に基礎学力を身につけてきている。

・高学年を中心に「自主（家庭）学習のしおり」を配布し、保護者の協力を得ながら、学習習慣の定着を図ったが、個人差が見られた。

	<p>B6 自国の文化を知り、他国の文化や言語を楽しみながら学んでいる。</p> <p>【数値指標】        全体アンケート「国際理解の体験活動や英語活動が楽しい」⇒児童の肯定的回答80%以上</p> <p>・        課題等</p>	<p>①地域人材の協力を得て、自国や他国の文化にふれる体験的学習を実施する。</p> <p>②ALTや英語ボランティアと共に教材を開発しながら、学年に応じた英語活動を推進する。</p> <p>々な人々にふれる機会を増やし、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	<p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取り組みを継続し、地道に基礎学力の向上を図る。</li> <li>・少人数指導・習熟度別学習を今後も取り入れ、個に応じた指導を充実させる。</li> <li>・宿題や家庭学習については、学級差が生じないように学年での話し合いを十分持って取り組む。</li> </ul> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の肯定的回答は82.4%で数値目標は達成できたといえる。保護者は70.7%と少し向上した。</li> <li>・ALTや英語ボランティアとの連携が図られ、充実した英語活動ができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTや英語ボランティアとさらに協力しながら、各学年の英語活動の一層の充実を図る。</li> <li>・授業参観・オープンスクール等で英語活動の様子を公開し、保護者に英語活動の様子を伝えたり、目的を理解してもらったりする。</li> <li>・活動の様子を学年だより、学校だより、HP等または学級懇談・学年懇談で保護者に伝える。</li> </ul>
--	---	--	--

## 〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

### 1 教育全体の状況

- ・ 全体アンケートでは、おおむね良好な結果を得られている。
- ・ 93%の児童が楽しく学校生活を送っている。また、保護者も93%、地域住民は100%と学校が明るく活気があるとよい評価を得ている。
- ・ 教職員は分かりやすい授業を目指して取り組んでいるが、保護者の願いに十分には応えてはいないところもある。教材研究を充実させ指導方法の工夫改善を図り、指導力の向上に取り組み、少人数指導や個別の学習など児童一人一人に応じたきめ細かな指導をさらに充実させていかなければならない。
- ・ 今年度の研究を生かして、人とのコミュニケーションがとれる心豊かな児童の育成を目指し、取組を充実させていく。

### 2 学校運営の状況

- ・ 全体アンケートでは、良好な結果が得られている。
- ・ 本校は地域人材、周辺の施設に恵まれており、体験的な学習活動が多く取り入れることができている。
- ・ 学校だよりやHP等で学校の情報を広く公開し、保護者や地域との連携をさらに深めていきたい。
- ・ 学校はゆとりのある施設で、また、縦割り清掃や緑化活動により、潤いのある環境となっているが、児童の清掃活動や整理整頓等学校全体で取り組んでいく。

### 3 教育活動の状況

#### ① 生活

- ・ 児童は「学校が楽しい」と感じており、不登校の状況がないことは、嬉しいことである。しかし、6.6%の児童が否定的意識を持っていることの現実を真正面から受け止めなければならない。
- ・ 全体アンケートでは、各評価者とも「あいさつ」「言葉遣い」が低い評価であるが、前年度よりはよくなっており、児童の回答も上昇している。「あいさつ」「言葉遣い」は礼儀の基本となることである。学校・家庭・保護者が一体となって取り組む必要がある。
- ・ 登下校時の児童の安全は、保護者・地域の協力により守られている。問題等が起きた場合は即指導ができるように、保護者や地域から情報にも組織的に対応していきたい。

#### ② 健康・体力

- ・ 全体アンケートでは、どの指標においても、良好な結果が得られている。
- ・ 「好き嫌いなく食べる」については、保護者、教職員、児童ともにほぼ70%くらいで昨年度と異なり共通の認識となった。今後も給食指導の充実及び家庭への啓発に努めていく。
- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の実践ができるよう引き続き家庭と協力していく。
- ・ 「運動」は、徐々に体力の向上が見られる。外遊びを奨励するとともに、目標をもって運動に取り組めるような検定カード等の工夫を図る。

#### ③ 学習

- ・ 児童の評価は良好であり、保護者からの評価も昨年度と比較すると高くなっている。様々な場面での学校からの発信で学習の様子が少しずつ家庭にも伝わった成果である。これからも、基本的な学習態度を身に付けさせ、基礎・基本の定着に重点をおいた指導を進めるとともに、発表や話し合い活動が深められるように言語活動の場面を計画的に設定し、指導内容の充実を図りたい。
- ・ 学年に応じた家庭学習の時間が確保できるよう課題の内容と量を検討し家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化を身に付けさせたい。

### 4 本校の特色

#### ① 国際理解教育

- ・ 全体アンケートでの児童の肯定的回答が82.4%、地域住民は100%と高く、保護者も少し向上した。
- ・ 英語活動は、地域ボランティアやALTの協力が計画的・継続的に得られ、充実した活動となった。児童も英語活動に抵抗なく取り組み楽しい学習活動ができた。今後も教員の指導力向上や保護者への紹介活動等を努力していく。

#### ② 親学

- ・ 教育連絡日での親子で体験する活動のみではなく、夏休みの親子料理教室や土曜日授業の親子工作等実施日の工夫を行った。保護者の関心が高く参加者が多かった。

## 6 学校関係者評価

- ・清掃関係のマイナス評価があるが、以前に比べると学校がきれいになってきている。幼稚園でも、家庭であまりやられていない雑巾がけをさせたところ、ずいぶんできるようになってきた。
- ・あいさつは、家庭でもできていないようなので、継続して来年度も力を入れていくとよい。
- ・「お弁当の日」に家庭によっては、子どもたちが、お弁当を持って行かなくてはいけないという重荷にならないか心配である。本校は、年1回なのでよい機会になっている。時期的にも食材が痛むことの少ない頃なので、安心。
- ・学校で支援が必要な時には、いつでも声をかけてほしい。
- ・子どもたちは、学校の先生の名前を出すときちんとできることがある。先生の指導をよく聞く。

## 7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・本校の児童が生き生きと明るく仲良く助け合って学校生活を送っていることが、地域や保護者の皆様にはほぼご理解いただけた。しかし、まだ、保護者・地域の方に学校の情報が十分伝わっているとはいえない面もあるので、土曜授業・教育連絡日等の学校公開の機会を広く広報したり、地域と連携した学習を実施したりするなど、積極的な情報発信・提供をしていく。
- ・学習や読書活動については、地域の方々やボランティアの方々などの協力を得ながら、さらに学習環境を整え、子どもたちの基礎学力の定着と豊かな心の育成に努める。また、教職員研修をさらに深め、教師の指導力の向上を目指していく。
- ・「あいさつ」「言葉遣い」「安全な登下校」については、学校では、時と場に合ったあいさつやことばの遣い方、安全な歩行の仕方等の指導について検討し、工夫を重ねながら繰り返し指導していく。家庭や地域との連携も図りながら、児童の発達段階に応じた取り組みを工夫する。「あいさつ」については、今年度後半、進んであいさつする児童が増えてきた。朝のあいさつ隊等児童の自主的な活動も高めていきたい。
- ・食育については、家庭と連携を取りながら、食事の大切さや栄養を考えた食事について学習したり、好き嫌いをしないで給食を食べることを継続して指導したりしていく。